

本日(6月17日) 15:30
特設サイト公開！
<http://artschallenge.jp>

愛知県政記者クラブ
中部芸術文化記者クラブ 同時
プレスリリース 2021年6月17日
国際芸術祭「あいち」組織委員会

国際芸術祭「あいち2022」プレイイベント ARTS CHALLENGE 2022 作品募集



「ARTS CHALLENGE」(アーツ・チャレンジ)は、若手アーティストから作品プランの募集を行い、活動発表の場を提供することにより、愛知から世界を舞台に活躍するアーティストの輩出を目指す公募展です。

12回目の開催となる今回は、国際芸術祭「あいち2022」と関連したテーマを設定して実施します。是非チャレンジしてください。

お問い合わせ 国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局
〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13番2号 愛知芸術文化センター内
電話：052-971-3111 (代表)

【今回の「ARTS CHALLENGE」はここが違う！】

■ 国際芸術祭「あいち2022」にちなんだテーマ「I Got Up 生きなおす空間」を設定

「I Got Up」は、愛知県出身のアーティスト・河原温（かわら・おん）による同名のシリーズ作品で、河原の起床時間が印字された絵葉書を世界各地から送るといいます。これは、国際芸術祭「あいち2022」のテーマ「STILL ALIVE」が、河原が電報で自身の生存を発信し続けた「I AM STILL ALIVE」シリーズに着想を得ていることに呼応しています。応募する作品プランは、「I Got Up」を直接参照したものから、独自に解釈を加えたものまで、多様な展開が可能です。

また、本公募展の特徴は、愛知芸術文化センターのパブリック・スペースを活用する作品を募集することです。普段は作品展示で使用されることの少ない空間が「生きなおす」ような、その様相を大きく変化させたり、場所の特性にポジティブに応答したりするプランを期待します。

■ 「審査員賞」「観客賞」を設置

公募展開幕前日に実作審査を行い、沢山遼氏、新藤淳氏、竹村京氏がそれぞれ各1名/組に「審査員賞」を授与します。また、公募展開催期間中に来場者投票で「観客賞」を決定します。

■ 応募方法の簡略化

規定の応募用紙を減らし、オンラインで応募できるようになりました。

【募集概要】

募集期間

2021年7月3日(土)～8月30日(月) 17:00

審査員

○審査員

沢山 遼 [美術批評家]

新藤 淳 [国立西洋美術館主任研究員]

竹村 京 [アーティスト]

中村史子 [愛知県美術館主任学芸員/国際芸術祭「あいち2022」キュレーター]

○特別審査員

片岡真実 [国際芸術祭「あいち2022」芸術監督/
森美術館館長/国際美術館会議 (CIMAM) 会長]

活動奨励費および賞

活動奨励費： 30万円 入選8名/組程度 *入選者全員に支給

審査員賞： 20万円 3名/組 *入選者の中から、沢山氏、新藤氏、竹村氏がそれぞれ各1名/組に授与

観客賞： 1名/組 *入選作品の展示期間中に来場者投票で決定

応募方法

応募は特設サイト (<http://artschallenge.jp>)の応募フォームからのみ受け付けます。

結果発表

2021年10月11日(月)に特設サイト上にて公開

入選作品の展示

「ARTS CHALLENGE 2022」

展示期間： 2022年1月22日(土)～2月6日(日)

会場： 愛知芸術文化センター

アートスペースXおよびパブリック・スペース

閉館時間： 10:00～18:00

休場日： 月曜日(1月24日、1月31日)

観覧料： 無料

主催： 国際芸術祭「あいち」組織委員会

助成

一般財団法人地域創造

【審査員】



沢山 遼 [美術批評家]

岡山県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程修了。著書に『絵画の力学』（書肆侃侃房、2020年）、共著に『絵画との契約 山田正亮再考』（松浦寿夫、中林和雄ほか著、水声社、2016年）、『現代アート10講』（田中正之編著、武蔵野美術大学出版局、2017年）などがある。



新藤 淳 [国立西洋美術館主任研究員]

広島県生まれ。美術史、美術批評。共著書に『版画の写像学』（ありな書房）、『ウィーン 総合芸術に宿る夢』（竹林舎）、『ドイツ・ルネサンスの挑戦』（東京美術）など。展覧会企画（共同キュレーションを含む）に「かたちは、うつる」（2009年）、「フェルディナント・ホドラー展」（2014-15年）、「No Museum, No Life?—これからの美術館事典」（2015年）、「クラナハ展—500年後の誘惑」（2016-17年）、特別展示「リヒター | クールベ」（2018-19年）など。

目下、「令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる」展覧会として、開催館／開催地の作品や記憶たちとともに展示を会場ごと2通りに分岐させる「山形で考える西洋美術 | 高岡で考える西洋美術—「ここ」と「遠く」が触れるとき」（2021年）を企画準備中。



竹村 京 [アーティスト]

東京都生まれ。1998年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業、2002年同大学大学院美術研究科修了。2000年ポーラ美術振興財団在外研修員としてベルリンに滞在。代表作に、壊れた日用品を薄い化学繊維で包み、その割れ目や傷跡を絹糸で縫い直す「修復シリーズ」や、主に写真やドローイングの上に刺繍を施した白布を重ねた平面のインスタレーション作品がある。

近年の主な展覧会に「How Can It Be Recovered?」（メイトランド・リージョナル・アート・ギャラリー、2020年）、「長島有里枝x竹村京 まえといま」（群馬県立近代美術館、2019年）、「どの瞬間が一番ワクワクする?」（ポーラ美術館、神奈川、2018年）、ほか。第15回シドニー・ビエンナーレ（2006年）、横浜トリエンナーレ（2020年）にも参加するなど、国内外で活動する。



中村 史子 [愛知県美術館主任学芸員、国際芸術祭「あいち2022」キュレーター]

愛知県生まれ。東海圏から関西圏を拠点に活動。専門は視覚文化、写真、コンテンポラリーアート。2007年より愛知県美術館に勤務。美術館で担当した主な展覧会に「放課後のはらっぱ」（2009年）、「魔術/美術」（2012年）、「これからの写真」（2014年）がある。また、美術館では若手作家を個展形式で紹介するシリーズ「APMoA Project, ARCH」（2012-2017年）を立ち上げる。2015年より日本と東南アジアのキュレーターが協働で調査、展覧会企画を行う美術プロジェクト「Condition Report」（国際交流基金主催）に参加し、2017年にはタイのチェンマイにてグループ展「Play in the Flow」を企画、実施する。2021年より国際芸術祭「あいち2022」キュレーターを務める。

【特別審査員】

片岡 真実 [国際芸術祭「あいち2022」芸術監督、森美術館館長、国際美術館会議（CIMAM）会長]

4名の審査員に加え、片岡真実芸術監督が特別審査員として応募書類の通覧を行います。